

今日という一日をしっかりと生きる

みなさんあけましておめでとうございます。

令和の時代となって初めての正月を迎えました。例年より少し長い冬休みになりましたが、こうしてまたみなさんが元気に登校してくれたことにまず安心しました。

さて、昔から1月は「往ぬ」(往ってしまう)、2月は「逃げる」、3月は「去る」というように、年度が替わる4月を迎えるまでの月日はあっという間に流れていくと言われていています。特に4年生は今月下旬の学年末考査まで、この学校の授業を受けるのも実質10日ほどしかありません。学校生活は長いように思うけど。本当に時間の流れは早いものです。

私はこの休み中に、学生の時の友達と久しぶりに会う機会がありました。同じ教員という職業なのですが、それぞれの今の仕事上の立場も中身も違うので、互いの苦しみについてはなかなか理解しあうことができませんでした。でも、みんな必死で毎日を送っているんだなということだけはわかりあえました。

今思えばみんな教員をめざしていたときの、「こんな先生になりたい」という思いに従って、それぞれの道を歩んでいるうちに、気がついたらもう教師としてのゴールテープを目の前にしています。そのゴールテープの色と形が果たして自分の目指していたものなのかは正直言ってよくわかりませんが、確かにそれは自分のものなのです。

みなさんに伝えたいことは、明日の自分は今日の生き方によって決まる、ということです。この学年でのゴールを目の前にした以上、なんとしてもそこへたどり着いてもらいたいです。例えば勉強の今の成績状況、そして今の出席の状況をしっかりと見つめてみましょう。ゴールが見えた今、そこへたどり着くまで毎日をどう過ごせばいいのかがわかるはずですよ。

さっきも言ったように、3学期というのは本当に短いです。一日一日が自分にとって大事な一日となりますよ。

ゴールすることに意味があるのです。

今日はみなさんが、ぜひこの学年をゴールするぞという決意を新たにする日です。自分自身がこの一年で成長したなと感じられることを期待し、始業式のあいさつとします。

令和2年1月9日

神戸市立楠高等学校長 有元 文祐